

2019年7月4日
富国生命投資顧問株式会社

「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同について

富国生命投資顧問株式会社（社長 奥本郷司、以下「当社」）は、このたび「気候関連財務情報開示タスクフォース※（以下「TCFD」）」による提言への賛同を表明しました。

当社は、2004年よりSRI（社会的責任投資）ファンドの運用を開始し、そのノウハウを引き継いだESG運用を長年に渡って行ってきました。「最も着実な成長を期待できる企業は、社会的責任を果たすことにより、持続可能な経済の成長を推進する企業である」との考えに基づき、環境・社会・ガバナンス等を考慮した投資を行っています。

気候変動情報開示を進展させるTCFDの提言は、当社の運用基本理念やESG取組み方針と整合的であり、気候変動が各企業に与える影響について理解を深めることは投資意思決定の重要なプロセスの一つであると考えます。

今回のTCFDの提言への賛同を契機に、当社は、スチュワードシップ活動の一環としてTCFD提言に沿った情報開示を投資先企業に働きかけ、開示された情報をもとに企業と対話をすると共にリスクと機会を共有するなど、その活動の一層の推進を図ります。

こうした活動を通じ、よりの確なESG評価、企業価値評価に努めることで、お客さまの中長期的な投資リターンの拡大を目指して参ります。

※ 気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD：The Task Force on Climate-related Financial Disclosures）は、G20の財務大臣・中央銀行総裁からの要請を受け、金融安定理事会（FSB）の下に設置されたタスクフォース。2017年6月に、気候変動がもたらすリスク及び機会の財務的影響について、企業が自主的に情報を開示するための提言を公表した。

以 上